

受講番号 18055 学校名 城西中学校 氏名 上岡 真理

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 中学校 第1学年 生徒数 90 名
 科目名 第1学年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1

クラスの様子・特徴

全体的には、英語学習に対して意欲をもって取り組んでいる。「教育特区制度」により、小学校で英語の授業を週2時間受けてきた生徒を含む。(第四小29名、第六小15名)学習習慣が身につけていない生徒がいるので、個別指導をしながら励ましていきたい。

問題の確定

文字と発音が結びついていない、英語が読めない生徒がいる。授業の中で、特に「読むこと」「書くこと」の力をつけていきたい。

予備調査

A 授業の観察

ほぼ全員の生徒が授業に積極的に取り組んでいる。しかし、学習用具をもってきていない生徒や文字をノートに書くことができない生徒が数名いる。全員が参加する授業をしたい。生徒の音読の声は、全体としては大きく、いいに文字を書く生徒も多い。

B 生徒による授業評価

授業の中で、「読むこと」「書くこと」を大事にしてきた。そのことは生徒も理解し、「がんばって読んだり書いたりした」と感想を書いた生徒が多かった。また、生徒は活動をしたいと思っている。今後はさらに授業の中に楽しい活動を入れていきたい。

C 学力データ

「全員が教科書の本文を読むことができること」を目標にしているが、チェックをしてみると、this that it's などが読めていない生徒がいた。(7月) 文字をしっかりと見て発音することを促す。また、自己表現活動も取り入れたい。

リサーチ・クエスト

授業の中に、コミュニケーション活動を取り入れることにより、単語を覚え、文の決まりを学ばせたい。1年の終りまでに、全員が教科書の本文を音読でき、学習した語句や文法を使って、「自己表現」ができるようになるにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

授業の中に「読む時間」を多く取り入れ、まとまった文の音読チェックをすれば、全員の生徒が教科書を「読むこと」ができるであろう。

実践1

英語の基礎学力をつけるためには、「音読」できることが大切だと考える。毎時間の授業の中で、「読む時間」を多く取るようにした。1学期は、文も短く、一音に読むことが多かった。
 夏季休業中に、生徒一人10分間の「音読チェック」を実施した。
 (読む内容は、1学期に学習した教科書の本文とした)
 2学期は、本校の研究テーマである「協同の学び」

検証1

毎時間、「音読」パートとして教科書の本文を読んだことは生徒への意識付けとしてよかったと思う。夏休みの「音読チェック」は、生徒一人ひとりの読みの力を知り、その後の指導に生かすことができ、成果があった。授業中の「グループでの音読」についても、生徒どうしの教えあいができよかった。今後は、グループでの発表をスキットづくりなどに発展させたい。

仮説2

単語をしっかりと見て、発音練習をし、単語を書く練習をすることにより、文字と発音が結びつき、語彙習得ができるであろう。また小テストを実施することが単語の習得に効果的であろう。

実践2

2学期からは、「読むこと」「書くこと」を重点におき、指導した。特に、「曜日」については、集中的に取り組んだ。全員が言えることを目標に、「曜日とくたもの」「曜日とスポーツ」を組み合わせたなどくりかえし練習し、また「スベルも覚えよう!」という目的で、数回小テストを実施した。本校の「学習文化委員会」の定期テストへの取り組みとあわせて、終学活の時間にグループで練習することもあった。

検証2

毎時間授業の初めに、「城西英単語」(略して、「城英」)のプリント(B6)を配り、単語発音、単語を書くことの時間を設定した。次の時間にまるを入れたものを配り、生徒は各自ノートにはるようにした。単語習得として、成果が見られた。学習文化委員会とのタイアップでの取り組みもよかった。(2学期の中間テストに比べ、期末テストでは、70%近くの生徒が点数があがった。)

仮説3

場面設定を大事にしたコミュニケーション活動を取り入れ、「話すこと」の後に、「書くこと」をチェックしていけば生徒の「表現力」を高めることができるであろう。

実践3

「主語が三人称の場合」の動詞の変化、疑問文、否定文は、特に1年生にとってわかりにくい文法である。導入には、1年の担任の先生方の似顔絵をつかい、動詞もplay like にしほってみた。音声面で練習した後、グループで文法練習問題を「わからないところは教えあおう」と取り組んだ。ALTとの授業では、ワークシートをつかって、話す活動をした後、英文を書くようにした。

検証3

「主語が三人称の場合」の動詞の変化、疑問文、否定文の理解と定着を図るために、導入の工夫、練習を多く取ったことがよかったと思う。また、ALTとの授業で「話す活動」の後、「書く活動」をしたことは、生徒の「書くこと」の定着状況を知ることができた。授業の感想は、ほとんどの生徒が「楽しかった」と書いていた。今後も楽しい活動を工夫し、取り入れていきたい。

研究の成果

授業の中に、「読むこと」の時間を多く取ったことは効果があった。夏季休業中に「音読チェック」を実施したことは、生徒一人ひとりの読めていない箇所を知ることができよかった。特に「曜日」のスベルを「全員覚えよう!」と委員会とタイアップして取り組んだことも成果があった。この取り組みで、「目標となる単語を覚えること」の達成感をほとんどの生徒がもち、その後の単語習得に役だった。ALTとの授業の中で、「コミュニケーション的活動」を実施したことは生徒も楽しんでおり、今後も続けていきたい。

今後の授業改善の課題

グループでの活動を取り入れているが、さらに効果的な活動を工夫していきたい。特に、「表現力」を高めるための実践をしていきたい。「表現」として、スキット、スピーチ(show and tell)発表などをしていきたいと考えている。仮説3の「場面を設定して」の実践ができていないので、今後、タスク活動などを取り入れることを計画している。